



デザインに加え機能や個性も追求した新世代のCRAG!
SUVのみならず、クルマをカスタムする際に重要なアクセサリとなるアルミホイール。一般的にはアフターのホイールに交換し、ソライチにしたいユーザーが圧倒的に多いと思われる。だが、SUVの場合、リフトアップやそれに伴うタイヤサイズの変更(幅方向だけでなく、タイヤの直径も大きくする)など様々な要素が絡み合い、ホイール選びは単純な話ではない。また、リフトアップを行うとクルマの重心が縦方向に上がりノーマルよりも少なからず安定感が損なわれるが、それを補うためにスプリングだけでなくショックも交換、更にはオーバーフェンダーの追加でトレッドを拡大す



KADDIS XTREME RAV4 & XTREME DELICA D:5

CRAG GALVATRE

Produced by WORK

問い合わせ (ホイール) >>WORK
東日本コールセンター:Tel.048-688-7555
西日本コールセンター:Tel.06-6746-2859
中日本コールセンター:Tel.052-777-4512
www.work-wheels.co.jp

組み合わせ自由自在の王道3ピース

超バリエーション

ホイールを選ぶ時、誰もが重視するのはデザインやカタチのはず。そこはしっかり押さえつつ、豊富なサイズとカラーバリエーションまで展開するのが、CRAG GALVATREだ。自分だけのスタイルを目指したいのなら、ホイールもトコトン差別化を図りたい。

るなど、ただ車高を上げれば良いのではなく、トータルバランスを考へる必要がある。フロジョックのデモカーには組み合わせるタイヤ&ホイールのサイズを始め、様々なノウハウが注ぎ込まれている。
さて、2019年の11月に発売され、既に多くのユーザーが愛用しているのが、このWORKクラッグ ガルバトレ。注目すべきポイントは3つあり、1番目はCRAGの名前に相応しい高い耐久性を誇ることだ。改めてCRAGの意味を説明すると、GROSS COUNTRY RACING GEARの頭文字を組み合わせたもので、世界中のオフロードレースで培った高い技術力をフィードバックし、本格的なオフロード走行にも耐えうる強度を実現した製品にのみ名付けられるもの。また、今から四半世紀前、SUVがRVと呼ばれていた時代にCRAGは市場を席巻しており、昨今のSUVムーブメントの再来に合わせ、再登場。新しくもあり、クラシカルな雰囲気も醸し出しており、ガルバトレには「凱旋」という意味も込められ



CRAG GALVATRE COLLECTION

Specifications

15インチ・3ピース/ノーマル 5H-139.7

SIZE	カットクリア	ブラックシャムファーマシニング
15×5.5J	42,000円	52,000円
15×6.0J	43,000円	53,000円
15×6.5J	44,000円	54,000円
15×7.0J	45,000円	55,000円
15×7.5J	46,000円	56,000円
15×8.0J	47,000円	57,000円

※15インチ、16インチともに価格は税抜き
※センターキャップなどのオプション料金、
取り付け工賃などは含まず

16インチ 3ピース/ノーマル 5H-139.7

SIZE	カットクリア	ブラックシャムファーマシニング
16×5.5J	48,000円	58,000円
16×6.0J	49,000円	59,000円
16×6.5J	50,000円	60,000円
16×7.0J	51,000円	61,000円
16×7.5J	52,000円	62,000円
16×8.0J	53,000円	63,000円
16×8.5J	54,000円	64,000円
16×9.0J	55,000円	65,000円

1000通り以上の個性を実現可能!

ディスク部分だけでなく、アウターリムやインナーリムまでカラーバリエーションを設定するガルバトレ。王道と言うべきデザインを採用することで、どんなクルマにもマッチする。今回装着したサイズは8.0J×16、インセット13だが、最も深いサイズでは9.0Jでインセット-51も設定しており、カスタムの可能性を広げてくれる。



KADDIS XTREME RAV4



1クラス上に匹敵する存在感を実現

スプリングで1インチ、ボディアップキットで4インチリフトアップを行い、プラドにも匹敵する威風堂々とした姿にアレンジしたロードハウスのRAV4。純正バンパーに追加するファイバープロテクションと呼ばれるパーツは、スタイルだけでなくランプステーとしての機能も備える。もちろん、TSSの作動を妨げることもない。

派手にもシックにもアレンジ可能

フロントは30mm、リヤには25mmのオーバーフェンダーを追加したことで、タイヤは265/70R16に変更。ボディ各部の差し色に合わせたオレンジ&ブロンズリムの場合、ビビッドな印象を演出する。標準色のカットクリアは落ち着いた雰囲気を醸し出しており、色だけでクルマの雰囲気を左右するところは、まさにカスタムの醍醐味と言えるだろう。

2021年春のアゲ系最旬スタイル LIFT UP STYLE TRENDS @ 2021 SPRING

2つ目のポイントは、3ピース構造を採用することで、豊富なサイズバリエーションが展開できる事だ。ノーマルフェンダー車の場合、1ピースホイールでもジャストフィットするサイズが設定可能だが、前述したようにSUVをリフトアップするとタイヤサイズが大幅に変わり、更にはオーバーフェンダーも追加すると、装着可能なホイールは皆無に近い。だがガルバトレなら、個々のユーザーの仕様に合わせ、言うなればセミオーダーメイド感覚でサイズを設定することが可能なのだ。そして3番目のポイントは、無限とも思えるほど豊富なカラーバリエーションだ。ここ数年、SUVのカスタムに於いて「色」も重要なポイントとなりつつある。基本色はカットクリア(R

AV4に装着)とブラックシャムファーマシニング(D:5に装着)だが、ガルバトレの最大の魅力と言えるのは、セミオーダーカラー12色以外に、COLORISM 5色、COLORISM CLEAR 6色からディスクを選択可能、他にも8色のアウターリムとインナーリムは2色バリエーションがあり、ピアスボルトはクローム/ブラック/ゴールドを設定、センターキャップは2種類と、1000通り以上の組み合わせが実現可能な点だ。市販品の寄せ集めでカスタムするのではなく、まさに自分だけの「他人とカブらないカスタム」がガルバトレなら具現化できる。デザインや機能に加え、色でも個性を主張するのが最近の流行り。ただし最高の組み合わせを選ぶには、美的感覚も必要となるだろう。

カラーだけで軽快にも重厚にも演出

RAV4同様、アクセントカラーのブルーに合わせ、シルバー/クリアブルー&ブラックアルマイトリムをマッチング。足元を明るくすることで軽快さが醸されるのに対し、標準色のブラックシャムファーマシニングの場合、重厚感が醸し出される。全く同じサイズ、デザインでありながら、色だけでここまで印象が異なる変幻自在なホイールと言えるだろう。



KADDIS XTREME DELICA D:5



SUVらしい逞しさや力強さを強調

2019年にビッグマイナーを実施したD:5。ミニバン寄りになった印象を禁じ得ないが、ロードハウスではSUVらしいアウトドアユースの利便性をアップさせるカスタムを実施。スプリングとメンバーダウンキットで5インチ車高をアップし、RAV4と同じ265/70R16のオールテレーンタイヤを装着する事で、ワイルドさを強調している。